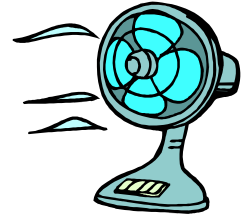


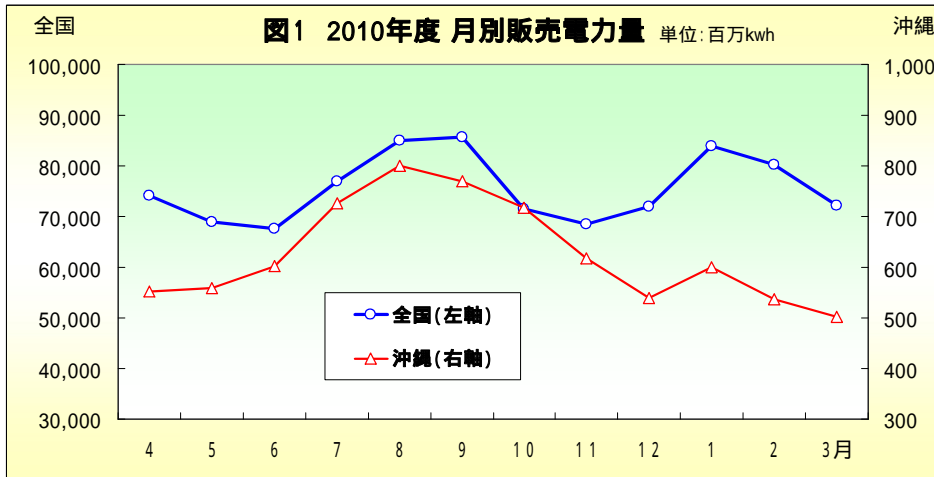
節電していますか？



今年も、暑い夏がやってきました。全国一早く梅雨明けした沖縄では、連日30度を超える真夏日が続いています。全国でも真夏日となる地域が増え、夏本番となりました。皆様のご家庭では、エアコンや扇風機で暑さを凌いでいることでしょうか。

電力需要が増える夏の季節ですが、ご存じのように先の東日本大震災の影響で電力が不足し、日本各地で厳しい節電を余儀なくされています。

下図は全国と沖縄の販売電力量の月毎の推移を表したグラフです。【図1】



2010年度の全国の電力需要をみると、7～9月の夏の時期と1～2月の冬の時期に高くなっていることが見て取れます。

夏や冬に冷暖房器具を使用する機会が多いことが影響しているようです。

一方、沖縄でも夏の電力需要は、高くなりますが、冬は気候が温暖なため、それほど高くなりません。

(注) 沖縄：沖縄電力

全国：沖縄電力を含めた電力会社全国10社の合計

資料：電気事業連合会「電力需要実績」

次に我が国(全国)の発電の電力構成比をみると、約3割の電力を原子力で賄っています。【図2】

しかし、今回の震災の影響で原子力発電のあり方が問われており、今後の電力構成比に大きな影響を与えそうです。

さて、今夏の東京電力管内と東北電力管内では、電力使用制限令が発動され、

大口需要家に、昨夏のピーク時の電力使用量に比べ15%削減するよう求められ、中小企業や家庭にも15%の自主的な節電が要請されています。

ところで、皆さんは、原発もなく遠く離れた本土の電力会社に電力の融通も出来ない沖縄で、節電することは意味がないと思われてはいないでしょうか？

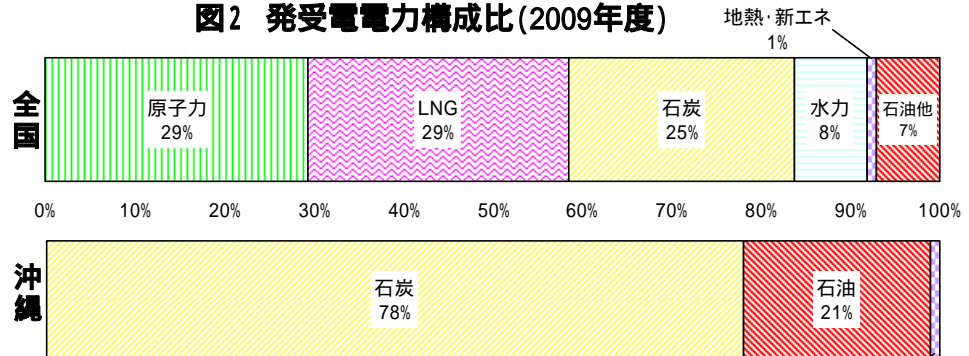
確かに沖縄で節電をして、余った電力を他の電力会社へ送ることは難しいことかもしれません。

しかし、沖縄の電力構成比を見ても分かるように、構成比のほとんどを占めている石炭や石油などの化石燃料の消費を抑えて、その抑制した分を被災地や電力不足に苦しんでいる地域にうまく配分出来れば、沖縄で節電することにも意味があるとされています。

また、節電をして化石燃料の消費を減らすことは、二酸化炭素排出の減少にも繋がり、環境面においても、意味のある行為です。

1人1人が出来る節電量は、ごく僅かかもしれませんが、家庭や企業、ひいては日本全体で積極的に節電に取り組めば、大きな効果をもたらすはずですよ。

図2 発電電力構成比(2009年度)



(注) 四捨五入の関係により100%にならない

全国：10電力社計

沖縄：沖縄電力

資料：電気事業連合会「図表で語る エネルギーの基礎 2010-2011」

LNG:液化天然ガス

新エネ等

1%